

小倉大納言新丹波黒収穫作業

例年、小豆の収穫を済ませてから、黒大豆の収穫を開始するのですが、今年は異常気象のせい
か同時になってしまいました。小豆の方は、一部脱粒しましたが、まだ格納庫で乾燥中です。

又、黒大豆に関しては、異常気象と白絹病の発生で収穫量は少ないですが、葉取り作業
を開始していただきました。

ほたるの里で栽培している小豆の品種は「**小倉大納言**」です。最古の小豆で馬路大納
言、瑞穂大納言等の元祖の品種と聞いております。又、黒大豆については京丹波で開発さ
れた「**新丹波黒**」で、最高の品種でございます。それを、ほたるの里の珪石の山から流れ
てくるきれいな水と空気で育った「**小倉大納言**」と「**新丹波黒**」どちらも大粒で味が最高、
もうすぐ収穫完了し、お客様に届けられることでしょう。

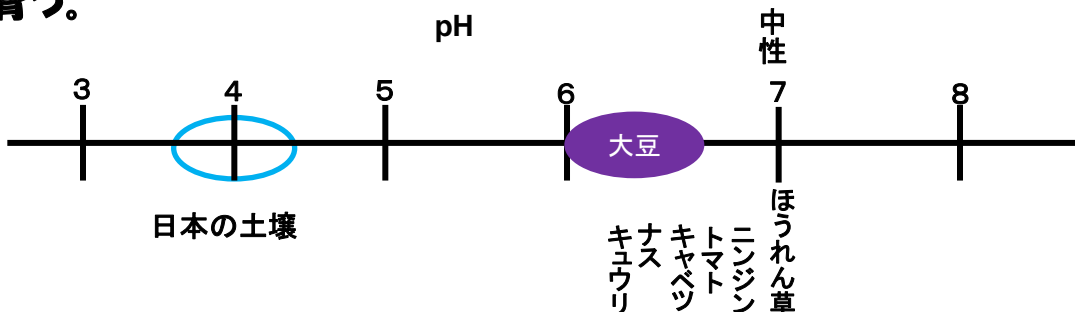
視察研修会に参加して

11月6日(火)、京都農業協同組合丹波支店生産振興会視察研修会に参加させていただきました。
研修先は岡山県瀬戸内市にあるト部産業株式会社岡山工場です。有機石灰「セルカ」を製造されて
いる会社です。瀬戸内に囲まれた肥料工場で、牡蠣の養殖のさかんな瀬戸内での牡蠣殻を使用し、
瀬戸内に囲まれた地に「セルカ」の工場がありました。屋外に山と積まれた牡蠣ガラを乾燥させ、砕き、
袋詰め、オートメーション化された工場を見学させていただきました。

工場見学の後、研修会では、作物栽培には、何が必要なのか、作物栽培における石灰の必要性に
ついて研修させていただきました。又、「セルカ」の特徴は、石灰岩から製造した苦土石灰に比較して、
牡蠣の貝殻を使用していることから、作物の必要なカルシウムの補給、有機微生物を増やす、又土
壌が固くならない等の利点がある事を勉強しました。

**日本の土は酸性である。作物を栽培するためには、その作物の適正pHがある。
下図は適正pHである。**

**窒素肥料を多くやっても作物は育たない。適正pHに土壌を保つことにより、作
物は育つ。**



(農)京丹波ほたるの里では黒大豆栽培に石灰岩原料の苦土石灰を使用しています。この視察研
修をきっかけにコストは多少高くなりますが、「セルカ」を採用していこうかと考えております。JAの担
当者と相談して検討していきたいと思っております。